

## 第 6 学年 2 組 総合的な学習の時間学習指導案

令和 3 年 1 1 月 1 5 日 (月) 第 5 校時  
在籍児童数 男子 1 6 名 女子 1 7 名 計 3 3 名  
指導者 教諭 小林 湧

### 1 単元名 卒業プロジェクト～学校内の三権分立～

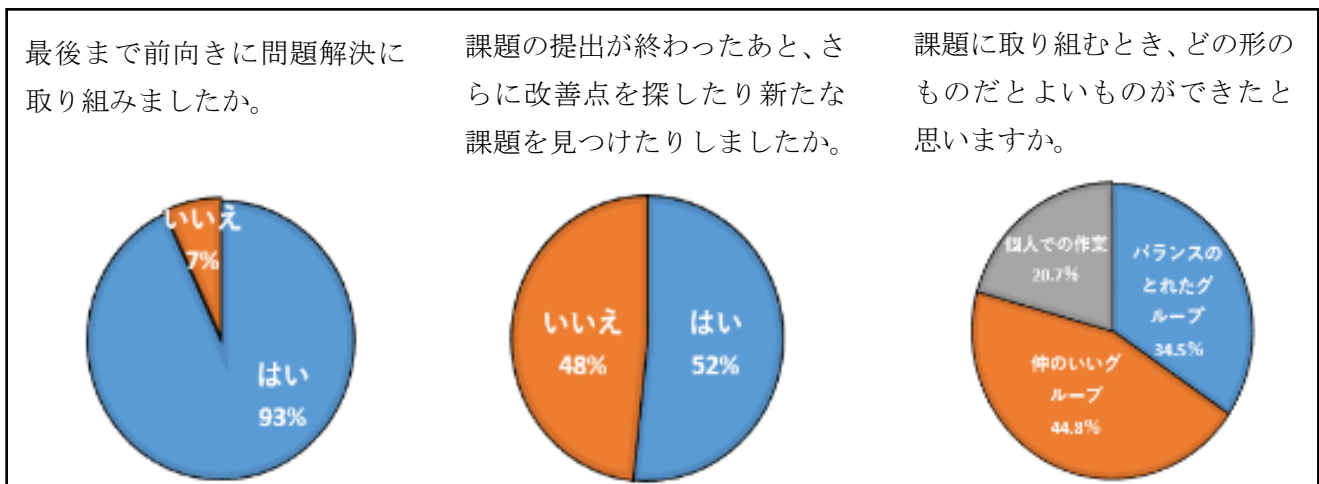
### 2 単元の目標

- (1) 探究的な学習の過程において、課題解決のためには、互いのよさや力を活かしていくことが重要であると理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) リサーチやフィードバックから得た情報から、「自分ができること」を考え、相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 目的意識をもって、最後まで見通しをもちながら粘り強くやりぬこうとする態度を育てる。 【学びに向かう力、人間性等】

### 3 児童の実態

本学年の児童は、第 5 学年で「未来の自動車 (社会)」「食プロジェクト (総合的な学習の時間)」を通じて、「課題設定」「情報収集・整理」「まとめ・表現」「分析・振り返り」の『探究のプロセス』を意識した PBL に取り組んできている。本校では探究のプロセスを問題解決力育成のツールとして考えており、児童たちは探究の流れを理解することはできている。

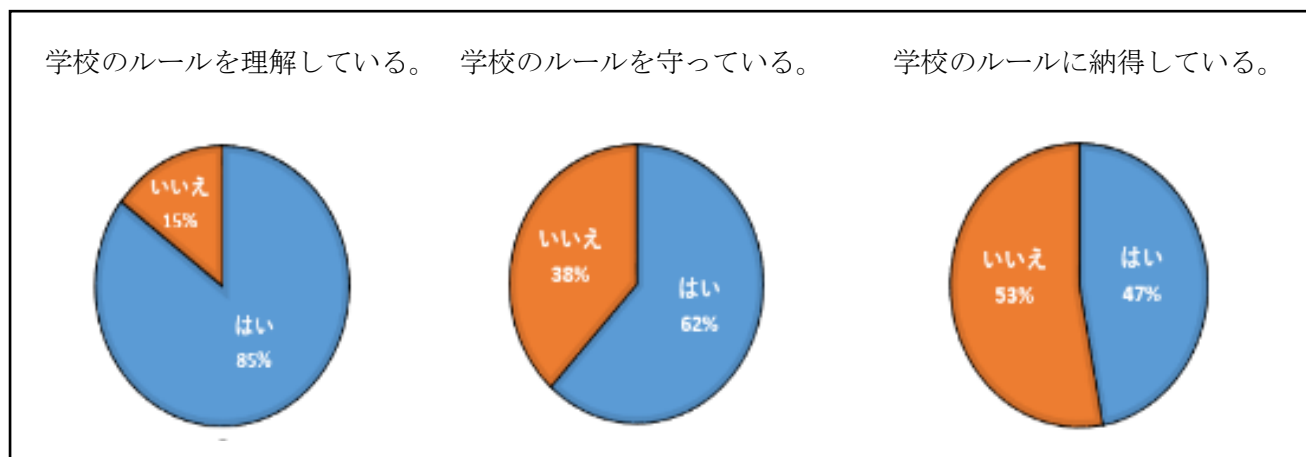
5 年生での総合的な学習の時間の活動について行ったアンケートの結果は以下の通りである。



この結果をみると、最後まで前向きに問題解決に取り組んだと感じている児童は 9 割を超えており、意欲をもって粘り強く課題に取り組もうとする態度が見られる。一方、一度「まとめ・表現」を行った後によりよいものを作ろうとさらに改善点を探したり、新たな課題を見付けたりした児童は 5 0 % 程度にとどまっており、一度アウトプットしたら満足している児童が多いことがわかった。また、協働することのよさをどのように感じているかの項目では、個人での作業が一番良いと感じている児童が 2 9 . 7 %、得意なことのバランスがとれているチームが良いと感じている児童が 3 4 . 5 %、仲がいい児童でグループを組むのが良いと感じている児童が 4 4 . 8 % と意見が分かれた。属性別に分析すると、昨年度のクラスや性別による差異は少なかった。一方で、他教科で出された課題の提出が遅れたり、課題

提出の基準に満たないことが多かったりする児童たちは「仲がいいグループ」と答えた割合が高く、他教科での課題の評価が高い児童ほど「個人での作業」がよいと回答していることが分かった。他の児童たちのフォローをすることが多く、互いのよさや力を活かしている感覚がないため、個人の方が効率がよいと考えていることが推察される。

また、今回の探究課題のテーマであるルールについて本学級の児童にアンケートを実施した結果は以下の通りである。



この結果から、およそ85%の児童が学校のルールを理解していると考えている一方で、学校のルールを守ってないと自覚している児童が40%程度いることがわかった。理由を聞いていくと「(ルールに)納得できていない」という声があがった。さらにアンケートを実施すると、半数以上が納得できていないルールがあると回答した。以上のことから、納得はしていないがルールを守っている児童やルールは知っているが守っていない児童が半数程度いることがわかる。

#### 4 授業力向上プランとのかかわり

##### ○カリキュラムを「つなぐ」

新曽小学校で身に付けさせたい資質・能力を検証し、「協働力」「問題解決力」「自ら進んで学びに向かう力」の3つの力に再定義した。資質・能力を児童と共有した上で、資質・能力ベースのルーブリックで自己評価を行う。道徳や国語の授業と内容を関連させながら、徐々に日々の振り返りも資質・能力を意識できるようにする。

#### 5 アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善の手立て

日々の活動で ICT の文具的活用が進んでいるが、授業内の ICT の活用で対話的な学びを促すことで、協働するよさを感じられる学習活動にしたい。

#### 6 教材について

##### (1) 単元設定の理由

総合的な学習の時間のプロジェクトとして『学校内の三権分立』という単元を設定した。GIGA スクール構想で一人一台 Chromebook が導入され、ICT が学びのマストアイテム化される一方で、学校内では統一したルールをさらに増やすべきではないかとの議論が教員の中で出てきた。児童にそのことを伝えたと、Chromebook は自分たちの学びの道具だから、自分たちでレベルアップできるようなルールをつくりたい」という声があがった。道徳の『本当に大丈夫?』『マナーからルールへ、

そしてマナーへ』『いらなくなってきたきまり』で〈節度・節制〉〈規則の尊重〉と組み合わせながら、禁止型ではなく、自分たちがレベルアップできるルールメイキングをおこなった。レベルアップ型ルールづくりで“理想の新曾っ子像”を設定していく上で、「Chromebook の活用に限った話ではないのではないか」という話題がでた。社会の『国の政治のしくみと選挙』で三権分立を学習した児童たちは「学校内では司法権も立法権も先生が握っている状態になっている。ICT 活用と同じように、学校のルールに関しても自分たちで見直すことができるのではないか」という議論をはじめた。

“学校のルール”という自分ごと化しやすいテーマに対し、主体的・協働的にプロジェクトを進めながら、納得感をもってルールを守る態度を育てたい。また、課題解決をしていく上で、互いの力を活かしていくよさを感じさせたい。

## (2) 単元の構成について

本単元は大きく分けて3つのパートに分けられる。Chromebook のルールをレベルアップ型で創っていくフェーズ①、新曾小のルール全体に視野を広げ、職員会議に提案するフェーズ②、提案が通ったものと通らなかったものを整理・分析し、他の学年に改めて校則を紹介するフェーズ③である。

フェーズ①では、“望ましい新曾小6年生の姿”をレベル3とおき、高学年になるまでに目指したい姿をレベル2、低学年で慣れておいてほしい力をレベル1とした。それぞれのレベルごとに必要なスキルを細分化していくことでChromebook の使い方のルールが決まっていくとともに、児童の中で“望ましい新曾小6年生の姿”がICT 活用だけに留まらないという新たな課題を発見できるといったフェーズ②に繋がる気付きをもたせていく。

フェーズ②では、新曾小学校のルールを整理・分析し、他校の事例等と比較しながら望ましい新曾っ子の姿と整合性のとれる校則を職員会議に提案していく。その時、学校教育目標との関連を意識させたい。ルールを見直していく中で新たな問いや課題が発生すると仮定し、探究活動の中で何度も課題解決のためのサイクルを往還する必要性を感じさせたい。また、活動を校外に発信することで、自分たちの活動と社会の繋がりを感じられる場をつくっていききたい。さらに、「協働するよさ」を感じる仕掛けとして、学級内を一つの組織に見立てて個別の力量に合わせて兼務をしながら分業をするグループをつくる。全員が同じプロジェクトをしているわけではないが、同じ目標に向かって仕事を分担することによって協働するよさを感じさせたい。

フェーズ③では提案が通ったものと通らなかったものを整理・分析し、なぜ学校にとってその校則が必要か/必要でないかをまとめる。その上で、下の学年に改めて校則の必要性、妥当性を伝えていきたい。その際、Scratch や Google サイトの活用も想定される。

## 7 本単元で児童に身に付けさせたい力

### ○協働力（知識・技能）

問題解決のためには互いの良さや力を活かしていくことが重要であると気付く力。

### ○問題解決力（思考・判断・表現）

思いや願い	課題設定	情報収集・整理分析	まとめ・表現	確認・検証・ふり返し
自分のやりたいことや気になることを見つけることができる。	リサーチやフィードバックから得た情報から、「自分ができること」を考え、解決のための計画を立てることができる。	多様な見方から情報の真偽を判断し、目的に即した情報を収集することができる。	見出した問題の原因や解決策を、ICT や思考ツールを使って、相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめることができる。	他者と比較しながら、活動のよかったところや改善点を正しく評価し、次の活動の見直しをもつことができる。

○自ら進んで学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）

目的意識をもって最後まで見通しをもち粘り強くやり抜こうとする力。

## 8 研究主題とのかかわり

### つなぐ

～カリキュラムを、人を、社会をつなぐ、資質・能力ベースの学び～

【仮説（育成）】身近にある様々な体験からテーマを設定し、活動内容やそれにかかる時間の見通しをもたせ、話し方や聞き方のHow toを提示すれば、目指す児童像に近づくだろう。

（手立て）

・他教科との関連

各教科とのつながりを意識するために、下記のような単元構成表を編成した。



このことにより、各教科での体験のつながりを意識した取り組みになると考える。

・ Google カレンダーの活用

いつでも簡単にスケジュールの確認ができる Google カレンダーを活用することで、予定の見通しを立てることができると思う。

・ 動画教材等の活用

NHK for School の動画を参考にさせることで、情報収集の仕方、整理分析の方法、よりよい発表の方法を知る機会になると考える。

【仮説（評価）】 診断的・形成的・総括的評価を適宜活用すれば、児童の変容を見取ることができるだろう。

〈手立て〉

・ 自己評価の活用

自己の成長を記録していくためのルーブリック評価表を作成した。

年 級 名 前		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
資質・能力	評 価	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
	傾 聴 力	A															
B																	
C																	
新 し い 知 識 の 取 組 み	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																
傾 聴 力	A																
	B																
	C																

これを用いることにより、児童は目指すべき力の見通しをもったり、自分の評価を定期的に行うことで、次時への明確な目標をもったりすることができると思う。





9 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
探究的な学習の過程において、課題解決のためには、互いのよさや力を活かしていくことが重要であると理解している。	リサーチやフィードバックから得た情報から、「自分ができること」を考え、相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめている。	目的意識をもって、最後まで見通しをもちながら粘り強くやりぬこうとしている。

10 単元の評価計画 全55時間

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校のルールや校則を見直し、必要なものは提案して自分たちで納得感のあるルールをつくる。	フェーズ1 ①これまでの自己の学びについて振り返りを行っている。 ②他者と意見をすり合わせながら目標を立てている。	①自分のやりたいことや気になることを見つけている。 ②問題を発見し自らの課題を見つけ、「自分ができること」を考え、活動の計画を立てている。	①これまでの学び方を生かし、新しい学び方、考え方を習得しようと意欲をもって活動に取り組もうとしている。 ②活動を通して気付いたことや学んだことを、これからの生活に生かそうとしている。
	フェーズ2 ③相手意識をもつことや、協働することのよさに気付いている。 ④効果的な情報発信の方法に気付いている。	③多角的な視点から、課題解決のために効果的な情報を収集している。 ④見出した問題の原因や解決策を相手の立場に立った分かりやすい伝え方でまとめている。	
	フェーズ3 ⑤常に相手を意識する大切さに気付いている。	⑤他者と比較しながら、活動のよかった点や改善点を正しく評価し、次の活動の見通しをもっている。	

11 単元配列表 (別紙) 参照

12 年間指導計画 (別紙) 参照

13 本時の学習指導 (本時30 / 55時)

(1) 目標

校則の提案に向けて、それぞれの活動目標に合わせて情報を整理・分析する活動を通して、友達の意見や大人の意見を考慮したり自分たちの提案を修正したりしながら、協働するよさに気付いている。

(2) 展開

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点○評価（評価方法）</li> </ul> ☆ALの視点	準備	時間
1 卒業プロジェクト全体の流れを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がおこなう。</li> <li>・職員会議での提案がスムーズになるように、思いやねらいを含めて各ユニットが全体像を伝える。</li> </ul>	資料	10
2 本時の目標を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           提案が通る確度を上げよう。         </div>		5
3 先生たちに個別に提案(質問)し、フィードバックをもらう等ユニット毎の活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで役割をつくっておくことで、参加をうながす。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆CEO グループ 全体の補助、統括</li> <li>◆COO グループ 全体の補助、全体の日程調整</li> <li>◆CIO グループ 全体の情報整理、HP づくり</li> <li>◆CTO グループ 汎用性をあげるためのプログラムづくり</li> <li>◆持ち物会社               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン類の持ち込み部</li> <li>・ゲーム機器の持ち込み部</li> <li>・消しゴム自由化部</li> </ul> </li> <li>◆登下校会社               <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学班廃止部</li> <li>・ランドセル部</li> <li>・通学時間部</li> <li>・通学路部</li> <li>・紅白帽部</li> <li>・班旗部</li> </ul> </li> <li>◆学校内会社               <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館使用部</li> <li>・体育服装部</li> <li>・校内服装部</li> <li>・ボール遊び部 等</li> </ul> </li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのまま会議にかけるわけではないので、言質をとったことにはならないと事前に確認しておく。</li> </ul>	Chromebook ノート	10



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEO、COO、CIO、CTO の各グループは卒業プロジェクト全体の作業を各グループと連携を取りながら行う。また、各提案を作っているメンバーの補助に入る。</li> <li>・各会社の提案をつくる部は、大人に「変えたいルールが今あるメリット」「新しいルールで懸念されているデメリット」を質問して提案に反映する。</li> </ul>		
4 提案の修正をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ジャムボードやロイロノート等の活用が考えられるが、提案の型はドキュメントで統一しておく。(AL の視点3)</li> <li>・修正内容がわかるように残しておくよう指導する。</li> <li>○他人の意見を反映して提案書を修正できている。(行動・発言・成果物)</li> </ul>	Chromebook	10
5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆資質・能力についての振り返り、本時の内容の振り返りを、Google フォームを活用して行う。(AL の視点3)</li> <li>・同時に相互評価も行う。</li> <li>○協働するよさについて言及できている。(振り返り)</li> </ul>	Google フォーム	10

#### 1.4 板書計画

11/15 卒業プロジェクト

提案が通る確度をあげよう

↓

- ・自ら進んで学びに向かう力
- ・問題解決力
- ・協働力

# 児童の板書

(はじめにグループ毎の情報共有をする場面)